

高知県の市町村における地域公共交通に対するインタビュー調査と分析

高知工科大学 1180035 岡田 溪佑
指導教員 西内 裕晶

1. 背景と目的

高齢化が進む近年、主に地方の高齢者を対象に生活の援助を目的としてコミュニティバスやデマンドバスといった地域公共交通を導入する自治体が全国で増加している。しかしながら、利用実績は芳しくなく、地域公共交通を導入した自治体にとって利用促進の検討が逆に課題となっている。また、実態把握がアンケート調査等で試みられているが利用促進に直接つながっていないのが現状である。

そこで本研究では、地域公共交通を導入している高知県の市町村に筆者らが実際に1週間滞在し地域の住民に対してのインタビュー調査により、住民の「本音」としての地域公共交通の実態把握を試みる。加えて、ICTや個人間輸送等の新しいサービスへの受容意識についても把握する。

2. 調査概要

本研究では、まず、平成27年国勢調査による人口や高齢化率などのデータを活用したクラスター分析により、高知県の市町村を4つのクラスターに分類した。その結果をもとに地域公共交通の導入時期の違いを考慮して土佐清水市、田野町、安田町の3つの市町村を調査対象に決定した。本研究では地域の住民の交通に関する「本音」を明らかにする観点から、従来のようなアンケート調査や交通環境に意識の高い住民のみが参加者となる傾向にあるワークショップ形式のヒアリング調査を採用せず、それぞれの自治体にて各1週間滞在し、集落や地域の集会所に訪れて住民の方に直接質問をするインタビュー調査を実施した。

インタビュー調査の質問項目については従来のアンケート調査を参考に30項目を事前に設定した¹⁾。主な質問項目は性別、年齢、世帯構成、職業、免許、外出頻度、携帯電話の有無、自家用車に対する印象、路線バスに対する印象、地域公共交通に対する印象、親族送迎および知人送迎に対する印象である。また、高齢者の方であっても実際にはICTを使いこなせる、または、ある程度の教育により使えるようになるのではないかと。という観点からICTの利用有無とICT教室への参加意思という質問項目を設定した。また、個人間輸送等の新しいシステムを導入した際の住民の意見を明らかにするため、個人間輸送に対する印象という項目を加えた。また、回答者の各質問項目での回答の理由や根拠といった質的データも記録している。

3. 調査結果

調査の結果、土佐清水市では46名、田野町では39名、安田町では36名と3市町村を合わせて121名分の回答が得られた。アンケート部分における主な回答として性別は男性が33%、年齢は65歳以上が81%であった。家族構成は単身が33%、職業はパート・アルバイトを除く無職者が71%であり、免許の有無は、なしまたは返納済みとの回答が50%であった。また、回答者が地域公共交通に対して「ポジティブ」であるか、「課題意識」を持っているか、「困っている」かの3つの質的な「意識」の計測をインタビュー回答時の発言や自由回答欄のメモのテキストデータから集計した。テキストデータの判断基準を以下に記載する。

「ポジティブ」については、全ての質問項目の自由回答欄から「～やってみたい」等の積極的な言葉が確認できた場合に「ポジティブ」な回答者であるとした。また、ICTの利用などで見られた「この歳では遅い」などのネガティブな発言が無かった場合も「ポジティブ」な回答者と判断した。次に「課題意識」では全ての自由回答欄から今後の生活、または公共交通や市町村の未来を考えた発言や意見、提案などが確認された場合に「課題意識」を持つ回答者と判断した。「困っている」では主観により判断をする材料が少なく、現状の生活や交通環境に関して「困っている」と答えた場合に「困っている」回答者と判断した。

キーワード 地域公共交通, インタビュー調査, 質的調査, クラスター分析, 主成分分析

連絡先 〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口185 高知工科大学 都市・交通計画研究室

5. インタビュー調査結果からの考察

(1) ICT と個人間輸送の因果関係

ICT と個人間輸送の因果関係をみるため、「ICT 教室への参加意思」と「個人間輸送に対する印象」の項目でのクロス集計の結果、ICT 教室への参加意思の高い回答者に特徴がみられた。図-1 は ICT 教室参加意思の高い回答者の個人間輸送印象の回答を市町村別に集計したグラフである。土佐清水市のみ個人間輸送を利用したいとの回答割合が大きいことが分かる。質的データでは「タブレットで予約してみたい」等の具体的な回答も得られた。田野町と安田町に関しては利用したくないとの回答が大半を占めた。地域公共交通の導入時期に着目すると土佐清水市は導入から十分に期間が過ぎており住民が更に新たな交通手段を期待する傾向があるとし、田野町と安田町は導入直後または未導入であり、まだ普及していないのに更に新たな交通手段は必要ないという傾向があると考察した。

(2) 量的データと質的データの比較

次に量的データの傾向を知るため主成分分析を行った。分析の結果から得られた主成分得点を用いて主成分1と主成分2を主軸とする散布図を作成した。主成分負荷量の値より、横軸の第1主成分は「総合的な自力移動力」、縦軸の第2主成分は「送迎の頼みやすさ」を表していると解釈した。

次に主成分得点を変数としたクラスター分析により各回答者をクラスターⅠ～Ⅳに分類した。図-2 は主成分得点散布図に分類されたクラスターの範囲の図を示している。

クラスターⅢは主成分分析より自力移動できず送迎者も限られると解釈でき、「ネガティブな思考や困っている人が地域差無く存在する。」と従来の量的データから考察されている。ここで本研究では、クラスターⅢにおける住民の3つの質的「意識」の傾向を分析する。表-1 はクラスターⅢにおける「ポジティブ」「課題認識」「困っている」の質的「意識」に該当される回答者の数を市町村ごとに整理したものである。土佐清水市は「ポジティブ」が比較的高く「困っている」も少ない。一方で、田野町は「ポジティブ」と「課題認識」と判断された回答者がほぼおらず、「困っている」が半数を占めた。安田町は、「課題認識」が高いのが特徴であり、改善を期待する意思がみられた。したがって、量的データのみでは回答結果の傾向に地域の差がみられなかったが、質的データを考慮することで地域差があることが把握できた。

6. まとめと今後の課題

本研究では、事前に告知しない状況でのインタビュー調査により住民の「本音」を把握し、定義した3つの意識により回答者の判別を行った。その結果、量的データのみと質的データを考慮した考察では結果に違いが生じる可能性を明らかにした。今後の課題としては実際に郵送方式によるアンケートデータとの比較や、調査市町村の追加や、データ分析の際に質的分析手法を使用する等、本研究を発展させていく必要がある。

参考文献

1) 土佐清水市：地域公共交通再編のための調査研究事業報告書，2017，3。

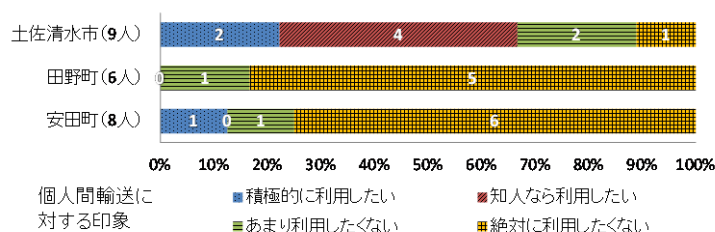


図-1 市町村別にみた個人間輸送に対する印象の集計

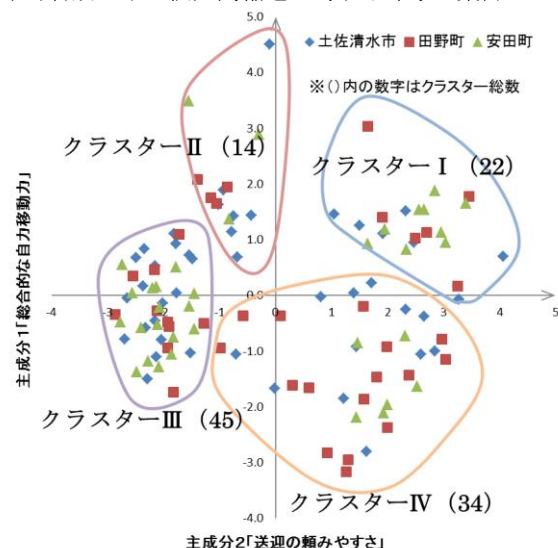


図-2 主成分得点散布図とクラスター分類

表-1 クラスターⅢにおける3つの「意識」の集計表

クラスターⅢ		ポジティブ	課題認識	困っている
土佐清水市	度数(人)	7	5	3
	割合(%)	38.9	27.8	16.7
田野町	度数(人)	0	1	5
	割合(%)	0.0	10.0	50.0
安田町	度数(人)	3	7	4
	割合(%)	17.6	41.2	23.5
合計	度数(人)	10	13	12
	割合(%)	22.2	28.9	26.7